

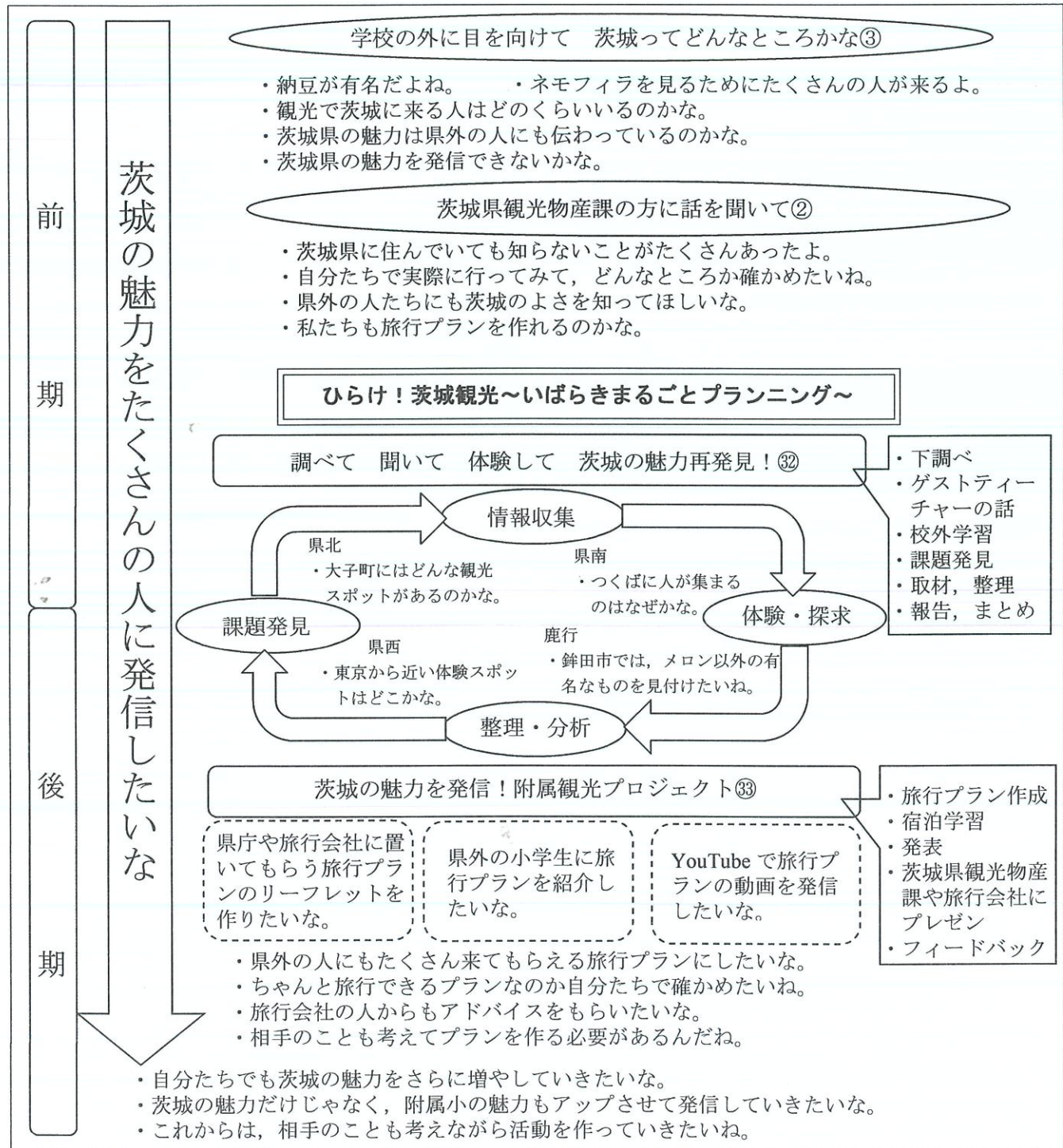
1 テーマ ひらけ！茨城観光～いばらきまるごとプランニング～

2 めざす子どもの姿

- 茨城の魅力を調べたり、茨城を体験したりすることを通して見付けた課題について、必要な情報を集めて整理・分析し、よりよい方法を考えながら解決することができる。
- 必要な情報を集めるために繰り返し茨城の人・もの・こととかかわったり、仲間と互いの考えを深め合いながら活動について探求することを通して、茨城の魅力について調べたり考えたりしたことを、表現方法を工夫しながら発信することができる。
- ICT 機器等を使って、調べ学習や体験活動を通してまとめた考えや構想を振り返り、これからの生活に学んだことを生かそうとしている。

3 活動計画 (70 時間扱い)

○：時数



4 実践報告

〈ひびきの立ち上げ〉

昨年度のひびきの活動で、校内での活動を中心に行ってきた子どもたちは、「学校の外にも目を向けてみたい」という思いをもっていた。その中で、「他の地域にも興味があるけど、まずは茨城県のことを知ったほうがいいね」「茨城に住んでいるけど、茨城の魅力って何だろう」という声が聞かれたので、茨城県観光物産課の方から、「茨城の観光」についての話を聞いた(写真1)。そして、茨城県には自分たちも知らない場所や魅力があることや、県外の人たちにはあまり茨城のよさが伝わっていないことを知り、「茨城の魅力をもっと知って、県外に発信していきたい」という思いを高めた。そこで、4学年のひびきの時間のテーマを「ひらけ！茨城観光～茨城グッドプランニング～」とし、茨城の魅力を旅行プランとして発信していくこととした。



写真1 茨城県観光物産課の方のお話  
茨城観光～茨城グッドプランニング～

〈茨城の魅力をひらく～茨城の魅力を再発見！～〉

茨城の魅力を再発見するために、観光物産課の方に教えてもらった場所やインターネットで調べた場所に行き、体験することにした。1、2回の校外学習では、二方面に分かれて、牛久大仏、ろ舟、花貫溪谷など、茨城に来たからこそできる体験を行い、気付いたことや感想を共有した。3回目の校外学習では、茨城の伝統工芸である「結城紬」にふれ、藍染めや機織りを体験した(写真2)。3度の校外学習を通して、子どもたちは「大人も子どもも楽しめる場所だった」「茨城に来たからこそ楽しめる体験がある」など、茨城の魅力に改めて気付くことができ、「県外の人にも体験してほしい」「これらの場所を旅行プランに入れて発信していきたい」という思いを強くした。



写真2 機織り体験

〈茨城グッドプランニング～オリジナルの旅行プランを作ろう～〉

茨城の魅力を発信するために、旅行プランを作成した。しかし、なかなかうまくプランニングができず、「移動時間が長い」「茨城でなくても体験できる」などの課題が残った。そこで、旅行会社の方のお話を聞き、旅行プランを作る際のポイントを学んだ。特に、「ターゲットを決めること」、「テーマを決めてプランを作ること」が大切であると気付いた。また、旅行会社の方が茨城の魅力を伝えるために作ったプランを体験し、茨城の花である「バラ」や茨城の木である「梅」をプランに入れることやロケツーツリズムといった新たな視点で茨城の魅力を発信する方法を知ることができた。

そして、再考した日帰り旅行プランの企画書(写真3)を旅行会社の方に見てもらい、フィードバックをもらうことで、自分たちの旅行プランをより魅力的なものへと改善していくことができた。

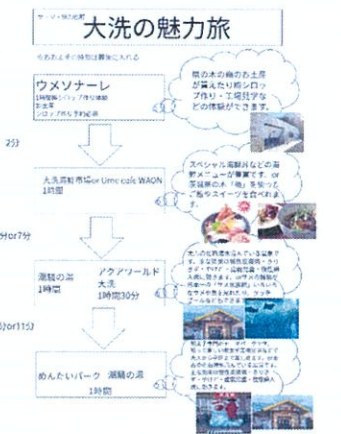


写真3 日帰り旅行プラン企画書

〈ひらけ！茨城観光～オリジナルの旅行プランを県外に発信～〉

旅行プランを発信するために、リーフレットやポスター、プレゼンテーション資料を作成した。「ずっと聞いているのは大変だから、質問を入れようかな」「クイズを入れると興味をもってもらえるかな」「文字の大きさも変えた方がいいね」など、相手意識をもち、どのように伝えようと相手にとって分かりやすいかを考えながら作成する様子が見られた。

他県の小学生にオンラインで発信した際には、相手の学校の子どもたちから質問やコメントをもらって、自分たちの思いが伝わったことへの達成感を味わっていた(写真4)。



写真4 発信の様子

この1年間で、様々な人と関わり、様々な体験を通して、たくさんのことを学び、自分たちが住む茨城のよさを再発見することができた。そのことにより、今の自分たちにできることを見出したり、進んで人と関わったりする姿が見られた。また、相手を意識しながら、自分たちの思いを発信する姿は1年間の大きな成長と言える。次年度は、学校のサブリーダーになる子どもたち。これらの活動が子どもたちの今後の糧になることを期待する。

(文責:宮本 渚)